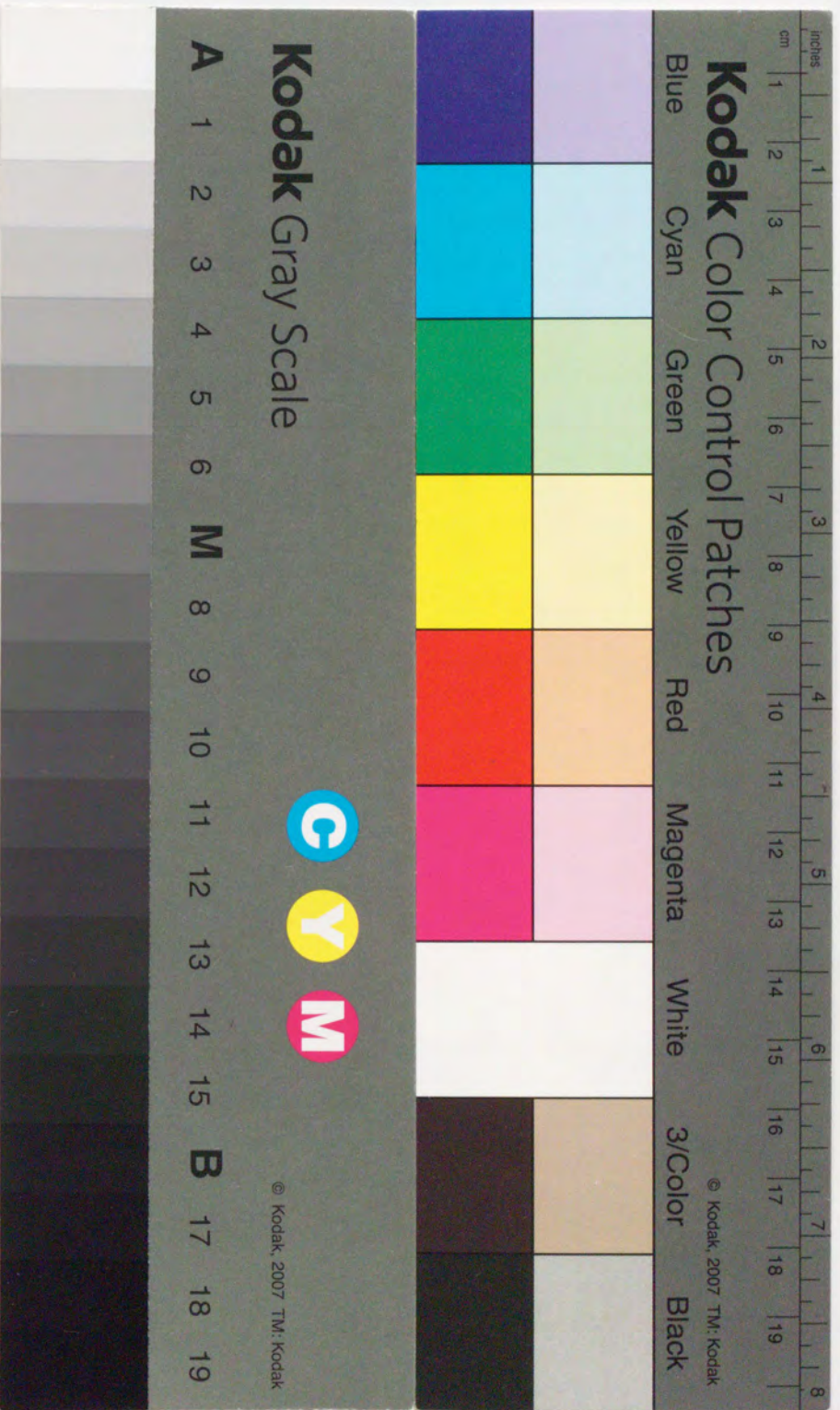






徳田
蔵
印

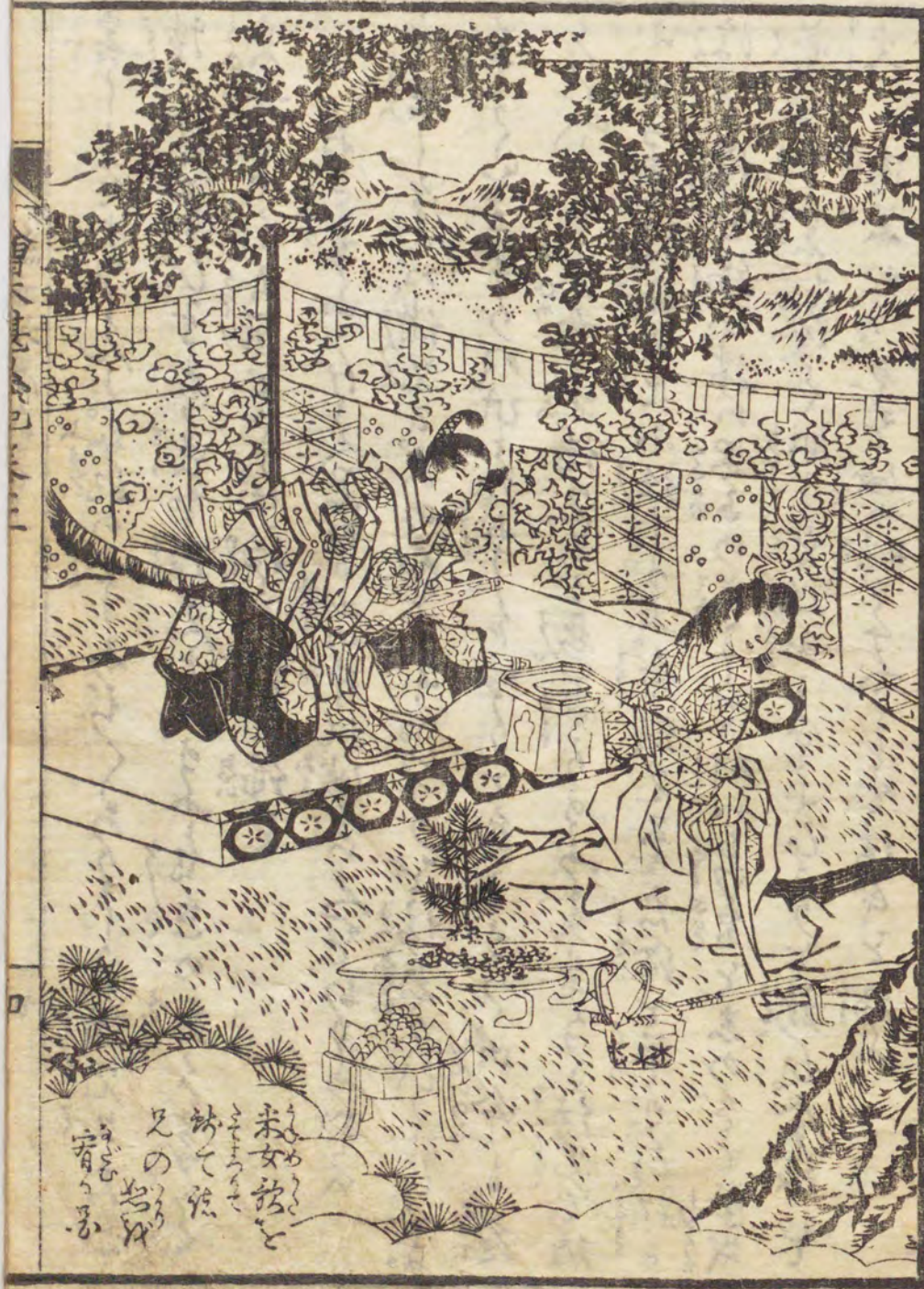
連水春曉齊画

繪本えほん堪かん忍にん記き

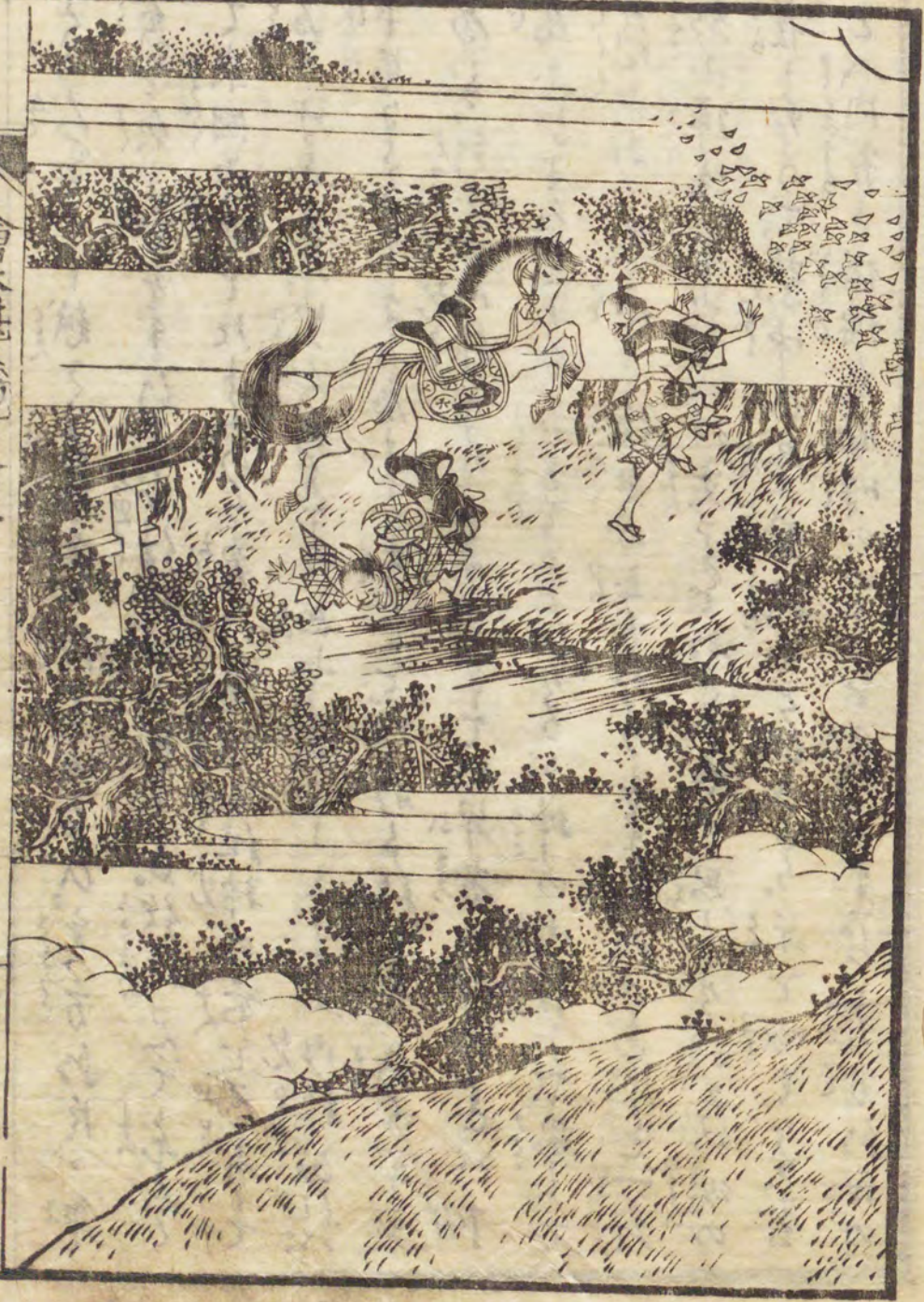
順應堂







會大甚矣已矣上



實方館長
乃祖神の
崇と
あや



會大甚矣已矣上

上



と蛇蝎の刺と秘し。姐己とやふて衆し。西伯侯紂王のを
を然て傳さる。やうど却て西伯を羨望し。固より七年。又西伯
が子伯邑考と斬て肉割る。又の西伯小腸。西伯後め家子其肉を
と知る。我を食する。半を衆し。眼を悪んでを食す。
やうど紂王のやうに。何者。西伯を衆人なり。や。我子の肉
を喰ふ。知る。慢り免れて。政刑小帰る。めを。西伯は
恨む。てを。紂王のを。衆し。衆る。百姓
恨。法度叛て。文王の。西伯を。衆し。衆る。衆る。衆る。
ま。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。
子武王。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。
衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。衆る。



石井政重の
着宗

馬と
衆

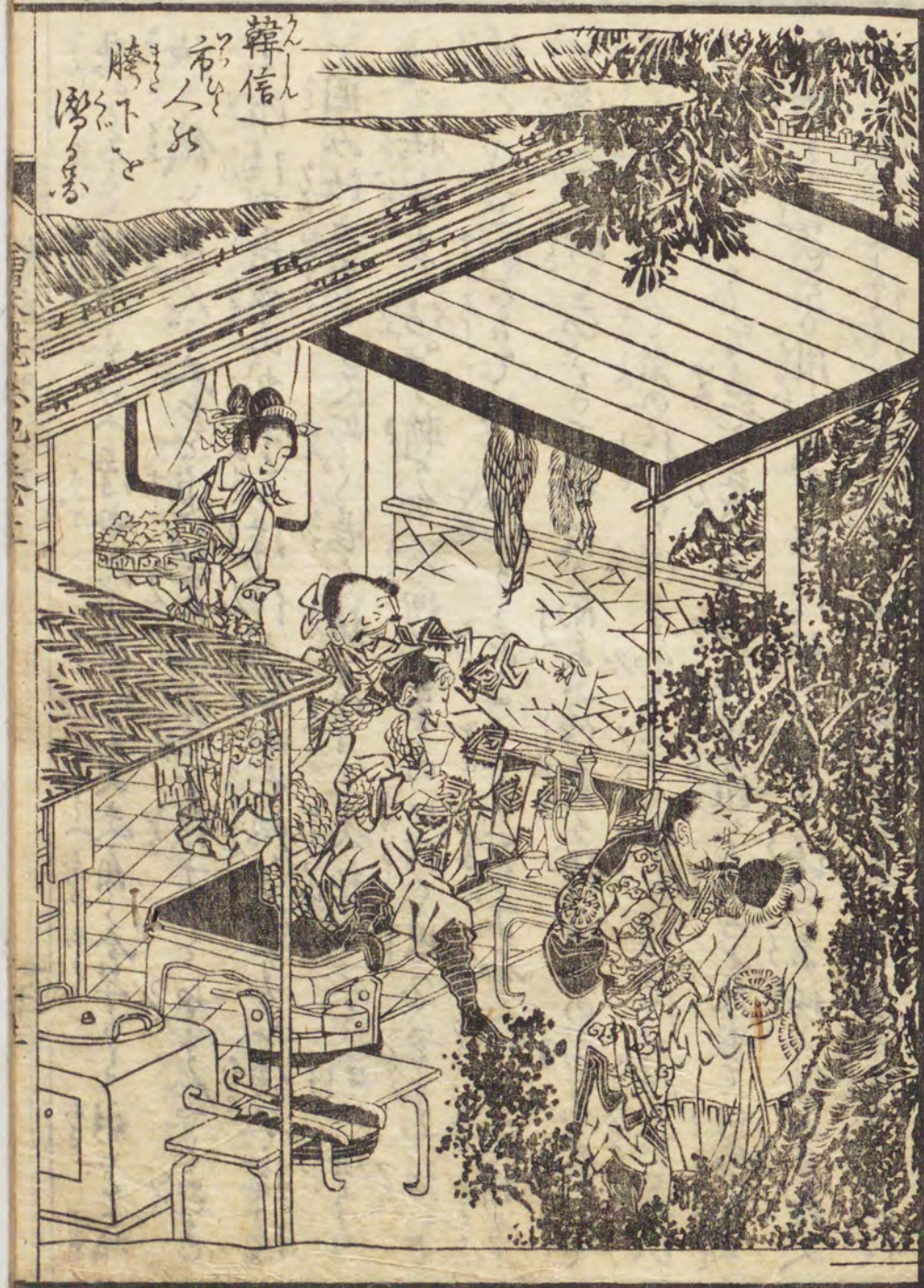
伊賀
 忍術
 秘傳
 卷之
 一
 伊賀
 忍術
 秘傳
 卷之
 一

會大甚忍也夫三



伊賀忍術秘傳

十



給本坊忍詔表口



○今也上人を佛の土居ゆゑ威され六波羅の唐をわく入京の
橋を通りひいては美さ男で太勢橋の上をさきききうは
昨の銭の先と指し多しよと破れし馬の背まで上人の顔と
あつふ撒らわつひり例より杖を振立て叩き倒しお殺せ給
まゝやと罵るは老翁して近き幕ふゆりうひんを傷りし日
はふもその身辱れしは後にも恥ぢりしと今日入京の
橋を人よえんぐよおまつまゝも卿を腹のふ事されしは事
成れりといふとさうと収ひしあて

○釋尊の御子羅睺羅を若し十丈童子の中へと忠告せし
も若しうわえの極く腹無く短き者として有りしは親を
睨みと呼んで細き水をかきえを流しゆえのぬく盤に

今もや富ひしを一夜翻し水のいそえの盤にまきや
もろひいふさきばはう膝蓋極くあを洗う切徳とまふも
水と地を翻してさびぬるさうさうさうさうの切徳更さる
うとと戒めをわひしは羅睺羅なるゆゑさひあき等の恥を
恥ひぬ一時わんまゐるなる婆羅門の家よりきつとわひし
彼婆羅門よりう羅睺羅を捕へて殺さる事極くう羅睺羅
血流を平へて退きしひいも恨めあつふさうさうさうさう
ひ我佛の教を信し痛を忍び眼をさききり家より物を忍ぶ
事妙のぬくや我をさききり位にや富りあふふとの怒をわ
怒も大人をさききり人のさきと侮りあつふさうさうさう
捨てしひいさうあつふさうさうさうさうさうさうさうさう